

能登半島地域で被災した港湾・空港等への対応【R6.7.23で応急復旧は全て完了】

- 能登半島地域では港湾全体に被害が及んでおり、石川県からの要請により、七尾港、輪島港、飯田港、小木港、宇出津港、穴水港の計6港について、1月2日以降、港湾法に基づき、国土交通省による港湾施設の一部管理を実施。
- また、石川県、七尾市からの要請により、上記6港に和倉港を加えた計7港湾2海岸及び能登空港について、大規模災害復興法の適用により、北陸地方整備局が自治体に代って本格復旧を実施。

輪島港

(最大水深7.5m、延長220m)

利用可能係留施設: 1施設/1施設

【現況と対応状況】

- 地盤隆起により、岸壁水深が最大1.5m程度浅くなっている。
→水深6mの岸壁として運用。
- 岸壁の背後に最大2mの段差が発生。
→応急復旧(1/4)で車両のアクセス経路を確保済。
- 地盤隆起により、小型船だまりで多くの漁船が操業不能。
→啓開作業(浚渫)(2/16~6/25)により水深を確保し、漁船の移動・陸揚を可能に。追加で船揚場周辺の浚渫完了(7/1~7/23)。

岸壁背後の沈下(被災後)

応急復旧の状況(1/5)

岩盤浚渫の状況(6/10)

和倉港・和倉港海岸

(最大水深3.0m、延長373m)

【現況と対応状況】

- 和倉温泉前面護岸に倒壊・傾斜が発生。
→応急復旧で大型土嚢設置完了(6/10)。

和倉港海岸の応急復旧完了(6/10)

七尾港

(最大水深11.0m、延長260m)

利用可能係留施設: 3施設/8施設

【現況と対応状況】

- 液状化の影響により、車両のアクセス経路が寸断。
→応急復旧により車両制限を解除、大型船利用が可能に(5/23)。

七尾港の応急復旧完了(5/23)

大型木材船が入港(6/3)

小木港

(最大水深5.0m、延長160m)

利用可能係留施設: 5施設/5施設

【現況と対応状況】

- 一部の岸壁で、岸壁水深が最大1m程度浅くなっている。
→当面、水深3.5m程度で運用。
- 岸壁背後に沈下(段差)が発生。
→応急復旧が完了(3/4)し、荷役可能。

能登半島地図

震央

輪島港

飯田港

宇出津港

小木港

能登空港

穴水港

半ノ浦港

和倉港

七尾港

福浦港

滝港

港湾管理者: 七尾市(和倉港)

港湾管理者: 石川県(和倉港以外の港湾)

空港管理者: 石川県

○ 代行復旧を実施予定の港湾・空港

● 重要港湾

▲ 避難港

● 地方港湾

★ 地方管理空港

※利用可能係留施設は宇出津港と穴水港は水深4.0m以上、その他の港湾は水深4.5m以上の施設に限る

飯田港・飯田港海岸

(最大水深5.5m、延長398m)

利用可能係留施設: 1施設/2施設

【現況と対応状況】

- 航路内に小型船が沈没し、航行時に注意が必要。
→貨物船が利用する航路内の沈没船の撤去を一部完了(2/9)。また、漁船だまりの航路啓開も完了(5/25)。
- アクセス経路にうねりが発生。
→応急復旧が完了(1/9)し、車両の走行経路を確保済。

防波堤の破壊(被災後)

航路啓開完了(5/25)

宇出津港

(最大水深4.0m、延長205m)

利用可能係留施設: 2施設/4施設

【現況と対応状況】

- 岸壁背後に沈下(段差)が発生。
→応急復旧が完了(3/4)し、荷役可能。

宇出津港の応急復旧完了(3/4)

穴水港

(最大水深4.0m、延長187m)

利用可能係留施設: 3施設/4施設

【現況と対応状況】

- 岸壁の傾斜及びエプロン沈下が発生。
→応急工事で物揚場を利用可能。

物揚場と臨港道路を接続

能登空港

(滑走路延長2000m)

【現況と対応状況】

- 滑走路等を応急復旧し、民航機の運航再開(1/27)。

滑走路の応急復旧(1/5)